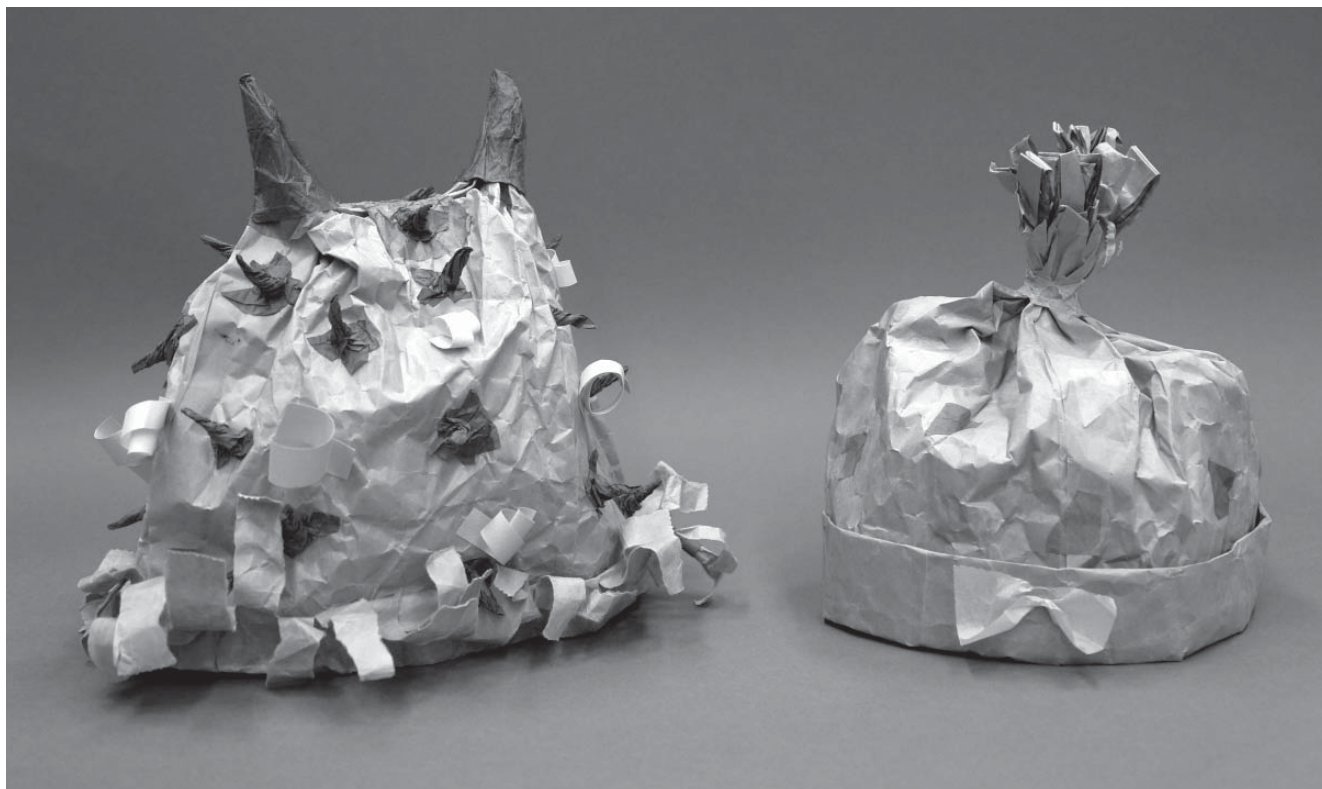


## 作って飾る “紙”の造形

もむことで変化する紙の質感と、作ったものを身につけて遊べる「紙」の造形プログラムです。身近な材料の紙袋を使って、変身してみましょう。

身の回りにある捨ててしまうようなものも、ちょっとしたアイデアと、少し手を加えることで、すてきな造形素材として生まれ変わります。



### 「クラフトハット」

私たちが日常多く使っている紙のほとんどは「洋紙」といわれています。パルプなどの木や植物などを砕いた短い繊維で、作られています。機械で漉かれているため、平滑で張りがあります。また、紙の目と呼ばれる繊維に縦横の向きがあるのが特徴です。

ふだん洋紙は折り目のないピンと張った状態で使いますが、あえて手を加え、質感や形の変化を楽しむ方法もあります。色画用紙を破れないように丸め、こすり合わせるように丁寧に揉んでいくと、紙の表面に細かい皺が入り、布のように柔らかく、和紙のようにあたたかみのある紙になります。

紙のできた身近な工業製品には、新聞紙、包装紙、紙コップや紙皿、クッションシート※1、波段ボール※2、紙ヒモなどがあります。これらの紙製品を使うと、身体まるごと変身できるさまざまなものが作れます。

新聞紙や包装紙は、柔らかく揉んで足を包み、のりで固定します。紙の色を活かして飾りつければ、素敵な靴ができあがります。クッションシートは両端を1つに束ね、真ん中を網状に広げれば帽子やバックに、波段ボールは波の目を活かせば筒状の服や冠に変身します。また、紙コップや紙皿は平面的な服につけるだけで、ロボット

「クラフトハット」では、身近な工業製品のひとつであるクラフト紙のできた紙袋を使い、揉んで質感を柔らかく変え、ねじったり、ちぎったりしながら形を作り、全体を飾ります。

手を道具のひとつとして使うため、紙そのものの感触や形の変化を身体で直接的に感じることができます。そして、完成した帽子をかぶれば、いつもと違う自分に変身でき、簡単な「ごっこ遊び」から、劇やお祭りなど「ハレの日」の衣装としても楽しむことができます。

身近にある工業製品を使い、幼児から学童まで幅広くダイナミックな表現ができるプログラムです。

のように一部が飛び出したユニークな服になります。

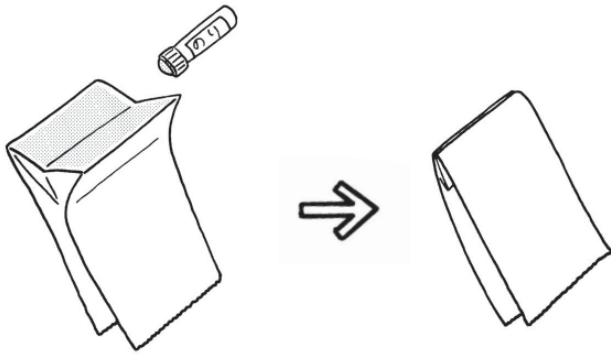
素材を「紙」1つに絞って探せば、使えるものを連鎖的に思い浮かべたり、同じ接着や加工方法、描画材や装飾材料を使えるという利点があります。身の回りにある捨ててしまうようなものを探して、アイデアをひねって使ってみましょう。

※1 ビンやボトルに緩衝剤として巻く、引っばると編み目状にひろがる紙

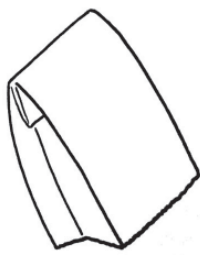
※2 梱包に使われる片面が凸凹した段ボールシート

□「クラフトハット」の作り方□

- 「クラフトハット」作りで使う道具□  
 のり／はさみ／鏡
- 「クラフトハット」の材料□  
 ①クラフト紙袋 1枚  
 (角底12号：幅180×高350×マチ105ミリ)  
 ②飾り用のいろいろな紙



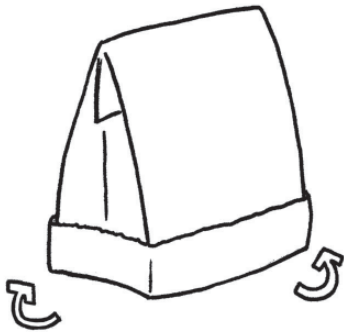
①クラフト紙袋の底に糊をぬって貼り合わせます。



②紙袋を破らないように揉んで、やわらかくします。



③ねじる、束ねる、ちぎる、折るなどを組み合わせて、形を作ります。形を固定したい時は、飾り用の紙にのりをぬってとめます。



④紙袋の口を折り返し、帽子の高さを調節します。



イラスト：横須賀ヨシユキ



⑤色紙を貼って、全体を飾ります。



⑥完成したらかぶって、鏡に映してみましょ。

お店の紙袋を再利用したり、飾り用の紙の種類を工夫したり、クレヨン・マーカーなど描画材を組み合わせることによって、さまざまな表現を楽しむことができます。

※紙のみみ方には、決まりや法則はありません。いろいろな方法で、紙をもむ感触や手触りの変化を楽しみながら、柔らかく揉んでください。紙袋の口の折り返しを少なくし、目鼻部分をちぎって穴をあけるとマスクも作れます。